2025(令和 7)年度

学校自己評価の報告書

学校法人 大阪明星学園
明星高等学校 ・ 中学校

令和７年（２０２５年)度　大阪明星学園における学校評価についての報告

学校教育法施行規則に則り、学校評価を実施しました。学校評価の目的については、文部科学省「ガイドライン」に従い、

① 学校が運営目標を設定し、達成状況を把握・整理し取り組みの適切さを検証することにより、学校運営を組織的・継続的に改善すること。
② 学校が評価の実施とその結果を説明・公表することにより、保護者、地域住民の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される開かれた学校づくりを進めること。
③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の必要な措置を講じることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

の三点とし、教職員による自己評価、保護者・生徒による評価を、以下の通り実施しました。

① 教職員による自己評価（アンケート形式）
評価対象期間　令和７年度　（１年間）
評価実施時期　令和８年１月２６日～２月７日
評価項目　「私学の特徴」「教育活動」「学校運営」「施設安全」「全体評価」の分類で、２８項目により評価しました。

② 保護者による評価(アンケート形式)
評価対象期間　令和７年度　（１年間）
評価実施時期　高Ⅲ　令和７年１２月　６日～１２月２１日
高Ⅱ～中１　令和８年　１月２４日～　２月１５日
評価項目　「私学の特徴」「教育活動」「学校運営」「施設安全」「全体評価」の分類で、２８項目により評価しました。

③ 生徒による評価(アンケート形式)
評価対象期間　令和７年度　（１年間）
評価実施時期　高Ⅲ　令和７年１１月１１日
高Ⅱ～中１　令和８年　１月２７日
評価項目　「私学の特徴」「教育活動」「学校運営」「施設安全」「全体評価」の分類で、２８項目により評価しました。

平成２８年度実施分より、外部業者(株式会社　ブレインアカデミー)に、データの集計・処理・分析を委託し、令和８年３月に集計結果および分析が返却されました。保護者、教職員、生徒のアンケートすべて、スマートフォンやタブレット、ノートパソコン等ＷＥＢでの回答方式で行いました。生徒の回答率は、中学３年生が６０．７％と最も回答率が低く、中学全体で６９．２％、高校全体で７１．９％となっており、昨年の最低だった学年が５１．８％であり、中学全体が６５．９％、高校全体で６６．４％であり、回答率が増加しました。最も回答率が高かった学年が中学１年生の８１．２％でした。回答率は、昨年度に比べて増加したものの、個人で持ってもらっているタブレットやノートパソコンを忘れてしまって、回答ができなかった生徒が多くいました。保護者アンケートは、高校で７３．９％、中学で９８．４％と学校全体で８５．５％となっており、昨年よりやや高校では減少したものの高い回答率を得ることができました。

また、令和７年度はインフルエンザの罹患率が高く、学級閉鎖、学年閉鎖が多くあった年度でありました。

全２８問全体の結果概要については、２０２５年度の数値が２０２４年度よりも低くなっているが、保護者、教員については誤差の範囲として例年と同様とみることができます。保護者についてはこの３年間における変化はわずかであり、概ね良好な評価を維持しているものと判断されます。

保護者への入学推奨度の質問で（本校への入学を親戚、友人、知人等に勧めますか？）は、学校運営に関する評価とともに、学校のブランド力（価値）を把握する一つの指標でもありますが、「はい（入学を勧める)」が学

校全体で７０％を超えており、各学年でみると、最も高い学年は８０．３％、最も低かった学年が６４．８％となっており、否定的な回答「いいえ（入学を勧めない)」は１０％未満にとどまっており、概ね良好な結果になっていると思われます。また、過年度との比較でみると２０２２年度には「はい（入学を勧める)」が６０％後半だったが、年度を追うごとに改善が図られ、２０２４年度に引き続き２０２５年度は「はい（入学を勧める)」が７０％前半と向上しています。

「はい（入学を勧める)」の比率がさらに上がっていくように、評価結果全体を教科、学年、各部においてそれぞれの立場で検討し、共通認識としてしっかりと共有し、本学園生徒がより良い環境で教育活動を享受できるように学校運営の改善に努力してまいりたいと考えております。

以下、（1） 令和７年度学校評価報告

（2） 保護者による評価、生徒による評価、教職員による自己評価のアンケートの雛形を添付いたします。

令和７年（2025 年）度　学校評価自己評価

１．めざす学校像

大阪明星学園明星中学校・高等学校の建学の精神

・キリスト教の教えに基づいた教育を行う学校として、キリストが人びとに示した理想的な人間像を、生徒の一人一人の中に実現すること。

・マリアニスト教育の目標に沿った教育

① キリスト教的価値観を身につける教育
② 全人教育を施す質の高い教育
③ 「家庭の精神」を基盤とする教育
④ 奉仕、正義、平和を目指す教育
⑤ 適応性と刷新・改革を目指す教育

大阪明星学園が育てようとする生徒像

・「よき明星紳士たれ」

豊かな教養と深い人間性を備え、社会に奉仕する「明星紳士」を育成する。

・「地の塩　世の光」

生徒が理想社会の実現のために、社会のあらゆる分野でその核となって指導的な活動をなし、他者のために働き得るような人材となるよう指導する。

・明星プロファイル

「心」　(永遠なるものを敬う心・自己の弱さを認める謙虚な心・他者を寛く受け入れる心・自然を愛し、生命を尊ぶ心)

「社会とともに」　(知的推進力・コミュニケーション・異文化理解・奉仕の精神・使命感)

２．中期目標

基本方針

「夢をつかむ確かな学力の錬成と、利他の心を育む人間教育」を目指す

社会課題に対し自ら動き出せる積極性をもち、どんなときも他者を理解できる寛容な心を育む教育。生徒一人ひとりが社会のあらゆる分野で求められる人になるために、主体性や人間性を伸ばす教育。グローバル社会で活躍するための教育活動や、知的好奇心を刺激する校外学習などを多く取り入れ、豊かな感性や探究心を育てる教育。

１）互いを尊重し合う「畏敬の念」
２）最後までやりきる「使命感」
３）新しい価値を生み出す「共創力」

これらを柱として、「明星の人間教育」を進める。

１．高い学力の育成

〇高度な授業

教員の専門的知識および授業スキルの向上を図るため授業改善を進める。

２．主体的に学ぶ意欲・態度の育成

〇生徒が自学自習を進めやすくなるような方策を検討する。

〇生徒の自立・自律を進めるような方策を検討する。
〇生徒の進路目標設定のためのキャリア教育の充実を図る。

Ⅰ　建学の精神と教育理念との関連

（1） 明星の生徒（明星紳士の中身）が目指す人間像の深化

明星の生徒は一人一人がクリスチャン・センスを身につけ、卒業し社会に出た暁には社会の変革に寄与することが出来るようにする。すなわち、確かなリーダーシップを発揮しながら、社会に奉仕することができるような人間を育てる。

（2） 建学の精神とグローバル教育

次世代を担う人材となるために、１２８年に及ぶ伝統を活かし、新時代にも適した教育実践を果たす。

Ⅱ　教育の内容と学習支援の充実

（1） 学力向上の取り組み

① 多様な大学入試制度に対応した授業の実践を図る。
② キャリアガイダンスを通じて自分の人生を具体的にデザインしていく。
③ 自学自習を習慣づけることで主体的に学ぶ力を身につけさせる。
④ リベラルスタディーズでさまざまなプログラムを実践し、自律的な学びを育む。
⑤ 長期欠席者への学習機会の提供。

（2） 授業内容の充実のための取り組み

① 教員の資質向上を図る。
② 各教室のプロジェクターやICT教室・ラーニングコモンズを積極的に利用し、主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の実践を図る。

（3） 生徒の人権意識を促すための取り組み

① 人権に対する正しい理解と認識を培う。
② 生徒の宗教心を養い育てる。

（4） 生徒の生活全般に対する取り組み

① 社会的なマナーや礼儀など、他者とのコミュニケーションに必要な基本的なものを常に意識させる。
② 生徒の自主的活動の活性化。

（5） グローバル化への取り組み

① 成長段階に応じた語学研修を実施し、英語を身近なものに感じさせ、グローバルな視点で物事を見つめ行動できる力を育成する。
② 他者との交流に必要な自分の意見の構築を促す一方で、広い視野を持つようさまざまな機会を提供する。

（6） 情操教育への取り組み

宗教教育を通じて人を大切に敬う心を育てる。

３．本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画・内容	評価指標	自己評価
Ⅰ(1) 明星の生徒が目指す人間像の深化	明星の生徒は一人一人がクリスチャン・センスを身につけ、卒業し社会に出た暁には社会の変革に寄与することが出来るようにする。すなわち、確かなリーダーシップを発揮しながら、社会に奉仕することができるような人間を育てる。	■クリスチャン・センスを身につける。 建学の精神について始業式・終業式および全校朝礼における学校長講話や宗教講話等で生徒に意識付けをしていく。毎朝のＳＨＲ時に心を１つにして主の祈りやアヴェ・マリアの祈りを唱え祈る心を育てる。	【学校評価アンケート】 設問１ 保護者 1.5　生徒 0.8 教員 1.3 設問２ 保護者 1.4　生徒 1.0 教員 1.0 設問９ 保護者 1.3　生徒 1.1 教員 0.9 設問１７ 保護者 0.8　生徒 0.7 教員 0.4 （保護者・生徒・教職員へのアンケートは文言に若干の違いはあるが、すべて同一内容になっている）	■前年に引き続き学校長の講話や宗教科を中心にした宗教講話で話をしています。また、毎朝「主の祈り」５月は「アヴェ・マリアの祈り」を唱えてきました。各設問の評価は昨年と比較して概ね横ばいで推移しており、「小鳩会活動」については、生徒の数値が少し下がっています。 今後も、学校長の講話や宗教講話を大切にしていきたいと考えています。
		■リーダーシップを身につける。 生徒会が中心となり各種学校行事に生徒一人一人が積極的に参加していく。	【学校評価アンケート】 設問２０ 保護者 1.3　生徒 1.2 教員 0.8	■中学校生徒会・高校生徒会が協力し、自主的な活動を行いました。とくに学園祭では、模擬店、芸能、展示や多くの文化部など、生徒会と実行委員会が中心となって計画・運営を行い、多くの生徒で話し合い協力しながら取り組むことができ、大成功を収めました。 また、全校朝礼などでは生徒会が主体となり、司会・進行など行いました。
		■社会問題に関心を持ち奉仕の精神を涵養する。 人権教育や小鳩会の活動を通じて他者の人権に配慮できる人間になる。また、社会問題に関心を持ち奉仕の精神を涵養する。	【学校評価アンケート】 設問９ 保護者 1.3　生徒 1.1 教員 0.9 設問１７ 保護者 0.8　生徒 0.7 教員 0.4	■人権 HR は年５回実施しました。人権推進委員会で毎回各学年の内容を検討し実施しています。生徒の評価は昨年より、ポイントが少し下がっています。保護者の評価のポイントが三者の中で最も高くなっています。 ６年間の取り組みがはっきりとしており、様々なテーマを取り上げています。いじめの問題、ＳＮＳとの付き合い方、成人年齢、ヤングケアラー、就職差別などその学年にあった様々な内容に取り組んでいます。 小鳩会の活動については直接炊き

				出しや様々なボランティア活動に参加したりしました。子供食堂のボランティア活動も積極的に行っています。今後も、自ら体験できる機会を増やして活動をしていきたいと考えます。
Ⅰ(2) 建学の精神とグローバル教育	次世代を担う人材となるために、１２８年に及ぶ伝統を活かし、新時代にも適した教育実践を果たす。	■ICT を活用した教育を促進する。 ■英語教育・留学制度の充実を図る。 アクティブイングリッシュ イングリッシュキャンプ 英語発信力養成講座 次世代リーダー養成プログラム ターム留学・セメスター留学 (カナダ・ﾆｭｰｼﾞｰﾗﾝﾄﾞ・オーストラリア・イギリス) ダイバシティプログラム・海外短期研修(カナダ・オーストラリア・カンボジア・インド・台湾・ハンガリー)	【学校評価アンケート】 設問５ 保護者 0.4　生徒 0.5 教員 1.3 設問２６ 保護者 1.2　生徒 1.0 教員 0.4	■中学１年生・中学２年生はノートパソコン１人一台、中３～高Ⅲまでの生徒は１人一台タブレットを持っています。授業やホームルーム等様々な教育活動でタブレットやノートパソコンを活用しています。また、生徒が校内での Wi-Fi も使用できる環境は整っています。 ■グローバル教育推進委員会を中心にさまざまな企画を立てています。 特に、ターム留学（３ヵ月）は中学３年生２０名、うちセメスター留学（６ヶ月）３名の生徒が参加しています。今年度は高校Ⅱ年生の参加者はいませんでした。また、１年のセメスター留学に行く生徒もいませんでした。
Ⅱ(1) 学力向上の取り組み	①学習指導要領を見据え新たな大学入試制度に対応できる授業実践。	■大学入試の英語の４技能の対策として、中１・中２でネイティブ講師による英会話授業、中３でインターネットを使ったオンライン英会話、高Ⅰ・高Ⅱでは外国人の講師と本校教員のチームティーチングを行う。		■英語４技能のうち、聞く・話すについては外部講師を導入し英語のコミュニケーション能力が上昇し、海外への短期留学や長期留学の関心が高くなり希望者も年々増加しています。 また、リニューアルしたＬＬ教室を利用し、よりよい学習環境で学習できています。 中学では、高い技能・知識だけを求めるのではなく、指導要領に沿った自分で課題を見つけ考え解決できる生徒を育成するコース「Ｓ特進コース」を１クラス募集しています。約３０名の生徒がＳ特進コースで学んでいます。また、他のコースの生徒にも自主的に学び探究する力の育成のため、図書館のラーニングコモンズや多目的ホールやＩＣＴ教室を使用し、グループ学習など探究学習を行っています。

	②学習ポートフォリオを通じて自分の人生を具体的にデザインしていく。	■合格者座談会、医学部進学ガイダンス、海外大学進学ガイダンス、大学の出張講義、高Ⅱ・高Ⅰには主要大学の入試説明会、勉強合宿、大学オープンキャンパス参加の義務づけなど、進路探究に取り組ませる。	【学校評価アンケート】 設問３ 保護者 1.1　生徒 1.0 教員 1.0 設問１５ 保護者 0.9　生徒 1.2 教員 0.9 設問１６ 保護者 0.7　生徒 1.0 教員 1.0	■進路指導部が中心となって各学年に様々な取り組みを行っています。 ■今年度の進学実績は、前年とほぼ同じ結果になりました。医学部医学科も、毎年、一定数合格しています（現浪合わせて）。
	③自学自習を習慣づけることで主体的に学ぶ力を身につけさせる。	■自習室の活用・自習会の実施。 ■外部講師による講座開催	【学校評価アンケート】 設問６ 保護者 0.9　生徒 0.6 教員 1.0 設問７ 保護者 0.7　生徒 0.7 教員 1.1	■自習室は、高Ⅲ各ホームルーム教室とラーニングセンターがあり、平日は中３～高Ⅲが、土曜日は全学年が利用できます。平日の中学１・２年生はＮ５０１～Ｎ５０３教室の自習室が利用できます。ラーニングセンターは朝７時～８時１０分まで、放課後は２０時まで、開室しています。放課後はメンター４・５名が常時いて、質問や勉強の仕方など聞くことができます。定期試験前は、かなりの人数が利用し、ラーニングセンター以外に普通教室も３教室も一杯になるほどで、中学１・２年生は多目的ホールを使用して自習をしています。 ラーニングセンターは朝７時～８時１０分、放課後８：００まで（日曜除く）朝の時間帯にも一定数、自習している生徒がいます。定期試験前などは入りきれなくなり、一般の教室も開放しています。 ■希望者には、放課後に外部講師を招き、小論文対策講座、英検対策講座や日本史、世界史の論述講座など開講し、生徒一人一人に対応した演習型個別指導講座を開催しています。
	④長期欠席者への学習機会の提供	■サポートルームの充実とスクールカウンセリングによるサポートの充実。	【学校評価アンケート】 設問１０ 保護者 1.0　生徒 1.0 教員 0.8 設問１４ 保護者 1.0　生徒 1.0 教員 1.3 設問２１ 保護者 1.2　生徒 1.0 教員 1.1	■様々な理由で朝から登校できない、教室に入れない生徒に対しサポートルームを開設しています。また希望する生徒・保護者に向けて週に２日スクールカウンセラーが常駐しています。生徒・保護者の利用者は年々多くなっています。

Ⅱ(2) 授業内容の充実のための取り組み	①教員の資質向上を図る。	■校内での研究授業を促進し、教員間の意見交換を活発にし、全教員の授業力を高めていく。 ■教員の研修出張報告の義務化と情報共有の強化。 ■授業アンケートの実施	【学校評価アンケート】 設問５ 保護者 0.4　生徒 0.5 教員 1.3 設問６ 保護者 0.9　生徒 0.6 教員 1.0 設問７ 保護者 0.7　生徒 0.7 教員 1.1 設問８ 保護者 1.2　生徒 1.0 教員 1.6 設問１４ 保護者 1.0　生徒 1.0 教員 1.3 設問１５ 保護者 0.9　生徒 1.2 教員 0.9 設問１６ 保護者 0.78　生徒 1.0 教員 1.0 設問２１ 保護者 1.2　生徒 1.0 教員 1.1	■研究授業は、各教科で、教育実習期間を中心に行っています。 また、外部の研修に参加した教員には報告書を提出してもらい、教職員誰でも閲覧できるように Classi で共有しております。 ■今年度は７月に生徒による授業アンケートを実施しました。教員各自の授業について生徒の率直な感想・問題点を知ることにより授業改善につなげていきたいと考えています。
	②各教室のプロジェクターや ICT 教室・ラーニングコモンズ・多目的ホールを積極的に利用し、主体的・対話的で深い学びの実践を図る。	■教員一人一人にノートパソコンを貸与し、生徒の出欠状況、成績等の管理に活用し、授業でＩＣＴを積極的に利用する。 ■図書館のラーニングコモンズと多目的ホール等を使用し、生徒がグループワークを行い主体的・対話的で深い学びができるようにする。	【学校評価アンケート】 設問５ 保護者 0.4　生徒 0.5 教員 1.3 設問２６ 保護者 1.2　生徒 1.0 教員 0.4	■教員は教員用のノートパソコンを使い、生徒の出欠管理や教員同士の情報伝達に活用しています。Classi やロイロノート、Teams を使い、担任・学年から生徒・保護者への連絡や、保護者からの欠席連絡もしてもらっています。また、授業のプリントを生徒のタブレットやノートパソコンに直接配信・回収することができ、ペーパーレスに繋がっています。 ■ラーニングコモンズを利用した授業や多目的ホールを利用した授業が増えてきました。高校生の探究の時間なども多目的ホールを大いに活用しています。

Ⅱ(3) 生徒の人権意識を促すための取り組み	①人権に対する正しい理解と認識を培う	■年間５回の人権ホームルームを実施し、いじめを含めた人権侵害に敏感になるよう教育する。	【学校評価アンケート】 設問９ 保護者 1.3　生徒 1.1 教員 0.9	■人権 HR は年５回実施しました。人権推進委員会で毎回各学年の内容を検討し実施しています。６年間・３年間を見通した、様々なテーマを取り上げています。いじめの問題、ＳＮＳとの付き合い方、成人年齢、ヤングケアラー、就職差別などその学年にあった様々な内容に取り組んでいます。特に低学年においては、仲間作りやいじめの問題を多く取り上げました。
	②生徒の宗教心を養い育てる。	■人権教育映画鑑賞 ■宗教科によるキリスト教に関連した講話、またその他の講話や講演会を通して、虐げられた人に思いを寄せるような感受性を育んでいく。	【学校評価アンケート】 設問１ 保護者 1.5　生徒 0.8 教員 1.3 設問２ 保護者 1.4　生徒 1.0 教員 1.0 設問１７ 保護者 0.8　生徒 0.7 教員 0.4	■映画も各学年で検討、学年の意向に合わせたものが選ばれ上映しました。（本校の講堂で上映。） ■建学の精神や宗教教育、小鳩会活動の中でもとくに宗教教育の評価は高く出ています。今後も、さまざまな機会を通じて生徒に他者への奉仕を意識付けさせ、ボランティア活動など積極的に参加するよう促していきます。世の中の様々な問題などについて、生徒自身が自分事化できるように取り組んでまいります。
Ⅱ(4) 生徒の生活全般に対する取り組み	①社会的なマナーや礼儀など、他者とのコミュニケーションに必要な基本的なものを常に意識させる。	■公共の場でのマナー、常識を身につけさせる。 遅刻指導、下校指導、校内指導など、目についた時にその都度指導する。 ■ＳＮＳの扱いに注意を促し、携帯電話・スマートフォンの学校への持ち	【学校評価アンケート】 設問１１ 保護者 1.1　生徒 0.3 教員 0.1 設問１２ 保護者 1.2　生徒 0.9 教員 0.2 設問１３ 保護者 1.2　生徒 0.8 教員 0.6	■交通機関でのマナーや通学路における登下校時のマナーや遅刻については生活指導部から直接、あるいは担任を通して生徒に呼びかけています。また、生徒会からも自主的に呼びかけを行っていますが、なかなか改善はされず年間何件もの苦情が届いています。特に、年度の始めや学期の始めに苦情が多く届きます。 「生活指導」「規範意識」「生活リズム指導」の設問では保護者の評価が高く、生徒、教員の評価との間に大きな差があります。昨年に比べほぼすべての評価で 0.1 ポイント下がっています。保護者の受け止めと、生徒の受け止めの間に大きな差ができています。根気よく言い続け注意を促していくのと同時に生徒への指導の仕方についても検討が必要と考えています。 ■2018年６月に起きた大阪北部地震以後、緊急時の対応として登下校時に

		込みについてルール厳守を徹底する。		携帯電話・スマートフォンの校内への持ち込みを、申請した生徒については認めています。ただし、緊急時以外は使用禁止、登校したらすぐに電源を切り校内での使用禁止等ルールを守るよう指導しています。今年度の指導件数が最も多かったのは、携帯電話の使用によるものでした。SNSをめぐるトラブルは多く発生しており、使う者のモラルを育成するため注意・指導をおこなっています。また、外部の警察や少年サポートセンターの方に来校してもらい、生徒に講演を行ってもらっています。
	②生徒の自主的活動の活性化	■クラブ活動や生徒会活動の充実	【学校評価アンケート】 設問１８ 保護者 1.2　生徒 0.6 教員 0.5 設問１９ 保護者 1.1　生徒 1.6 教員 1.3	■生徒会・クラブ活動の評価では、昨年度に引き続き高い評価を生徒から得られました。教員のクラブ活動の評価は、昨年より少し上がりました。外部コーチを招いたクラブもいくつかございます。
Ⅱ(5) グロ｜バル化への取り組み	①成長段階に応じた語学研修を実施し、英語を身近なものに感じさせグローバルな視点で物事を見つめ行動できる力を育成する。 ②他者との交流に必要な自分の意見の構築を促す一方で、広い視野を持つようさまざまな機会を提供する。	■コミュニケーションを重視した英語教育 アクティブイングリッシュ 英語集中ディスカッション研修 イングリッシュキャンプ 英語発信力養成講座 次世代リーダー養成プログラム ターム留学・セメスター留学 (カナダ・ニュージーランド・イギリス・オーストラリア) ダイバシティプログラム・海外短期研修(カナダ・オーストラリア・カンボジア・インド・台湾・ハンガリー) 英語検定試験		■グローバル教育推進委員会を中心にさまざまな企画を立てています。たとえば中３で生徒が１人１台パソコンを使い、英会話のオンラインレッスンの実施。高Ⅱ・高Ⅰでは、外国人の講師と本校教員のチームティーチングを行っています。 留学制度は目的・場所・期間に応じたプログラムも増えてきていて、希望者も年々増加しています。今年度、ターム留学（３ヵ月）は中学３年生２０名、うちセメスター留学（６ヶ月）３名の生徒が参加しています。 今年度は高校Ⅱ年生の参加者はいませんでした。また、１年のセメスター留学に行く生徒もいませんでした。 留学・研修プログラムはすべて実施しました。
Ⅱ(6) 情操教育への	宗教教育を通じて人を大切に敬う心を育てる。	■宗教教育を通じて人を敬う心を育てる。	【学校評価アンケート】 設問１ 保護者 1.5　生徒 0.8 教員 1.3 設問２ 保護者 1.4　生徒 1.0 教員 1.0	■「建学の精神」、「神の愛、命の大切さ」は保護者・生徒ともに昨年同様全体的に高い評価を得ています。生徒、保護者の評価は昨年とほぼ同じでした。 「小鳩会活動」の生徒、保護者の評価は昨年とほぼ同じでした。今後もとく

取り組み			設問１７ 保護者 0.8　生徒 1.0 教員 1.0	に生徒に対し、授業や学校行事、宗教部の活動を通じて建学の精神を浸透させ、人を敬う心を育てていきたいと考えています。

【 生　　徒 】　アンケート質問文

1	学校は、カトリックの理念・建学の精神について、理解に努めている。
2	学校は、宗教的な取り組みを通して、神の愛、命の大切さに向き合う機会を提供している。
3	学校は、学校や学級の目標についてはっきり示している。
4	学校は、学力向上のため必要な授業時間数を確保している。
5	学校の授業で知的好奇心が刺激されている。
6	教員は、自分自身の学習に適切な課題を与えてくれる。
7	教員は、学習習慣が身に付くような指導をしてくれる。
8	教員は、学力や努力を公正に評価してくれる。
9	学校は、自分自身に人権について考える機会を十分に提供している。
10	学校は、カウンセリングや不登校への支援などの体制が整っており安心できる。
11	学校の生活指導の方針に共感できる。
12	学校は、自分自身に規範意識が身につくよう指導してくれる。
13	学校は、規則正しい生活リズムが身に付くよう指導してくれる。
14	学校は、自分自身の悩みや相談に親身に応じてくれる。
15	学校は、進路に関する指導を十分に行っている。
16	授業や課外学習などの学校の学習は、希望する進路/大学受験に対応できている。
17	小鳩会活動によって国内外の人々と支えあって生きる必要性に気づくことができた。
18	生徒会活動はさかんに行われている。
19	クラブ活動はさかんに行われている。
20	学校行事は充実し、様々な経験ができるように工夫されている。
21	学校は、ご両親の悩みや相談、問い合わせに丁寧に対応している。
22	必要な情報がプリントや Classi などを通じて適切に家庭に伝達されている。
23	ホームページには必要な情報が掲載されており、有効に活用できる。
24	保護者会で得た情報がご両親の役に立っていると感じる。
25	学校は、いつも清掃され、清潔である。
26	学校の施設や設備はよく整備されている。
27	学校は、安全や健康の管理に常に配慮している。
28	緊急情報が確実に知らされる体制が整っており、安心できる。

【 保 護 者 】　アンケート質問文

1	学校は、カトリックの理念・建学の精神について、理解に努めている。
2	学校は、宗教的な取り組みを通して、神の愛、命の大切さに向き合う機会を提供している。
3	学校は、学校や学級の目標についてはっきり示している。
4	学校は、学力向上のため必要な授業時間数を確保している。
5	お子様は、授業で知的好奇心が刺激されている。
6	教員は、お子様の学習に適切な課題を与えている。
7	教員は、お子様に学習習慣が身に付くように指導している。
8	教員は、お子様の学力や努力を公正に評価している。
9	学校は、お子様に人権について考える機会を十分に提供している。
10	学校は、カウンセリングや不登校生徒への支援などの体制が整っており安心できる。
11	学校の生活指導の方針に共感できる。
12	学校は、お子様に規範意識が身につくよう指導している。
13	学校は、規則正しい生活リズムが身に付くよう指導している。
14	学校は、お子様からの悩みや相談に親身に応じている。
15	学校は、お子様に対して進路に関する指導を十分に行っている。
16	授業や課外学習などの学校の学習は、希望する進路/大学受験に対応できている。
17	お子様は、小鳩会活動によって国内外の人々と支えあって生きる必要性に気づいている。
18	生徒会活動はさかんに行われている。
19	クラブ活動はさかんに行われている。
20	学校行事は充実し、様々な経験ができるように工夫されている。
21	学校は、保護者の悩みや相談、問い合わせに丁寧に対応している。
22	必要な情報がプリントや Classi などを通じて適切に家庭に伝達されている。
23	ホームページには必要な情報が掲載されており、有効に活用できる。
24	保護者会で得た情報は役立っている。
25	学校は、いつも清掃され、清潔である。
26	学校の施設や設備はよく整備されている。
27	学校は、お子様の安全や健康の管理に常に配慮している。
28	緊急情報が確実に知らされる体制が整っており、安心できる。

質問 B	保護者のみ 「あなたは、本校への入学を親戚，友人，知人に勧めますか？」

【 教　　員 】　アンケート質問文

1	自分はカトリックの理念・建学の精神について、理解に努めている。
2	学校は、宗教的な取り組みを通して、神の愛、命の大切さに向き合う機会を提供している。
3	学校は、学校や学級の目標を保護者や生徒にはっきり示している。
4	学校は、学力向上のため必要な授業時間数を確保している。
5	自分は、授業で生徒の知的好奇心を刺激するように試みている。
6	自分は、生徒の学習のために適切な課題を与えている。
7	自分は、生徒に学習習慣が身に付くように指導している。
8	自分は、生徒の学力や努力を公正に評価している。
9	学校は、生徒に人権について考える機会を十分に提供している。
10	学校はカウンセリングや不登校生徒への支援などの体制を整えている。
11	学校の生活指導の方針に共感できる。
12	学校は、生徒に規範意識が身につくよう指導している。
13	学校は、生徒に規則正しい生活リズムが身に付くよう指導している。
14	自分は、生徒からの悩みや相談に親身に応じている。
15	自分は、生徒に対して、進路に関する指導を十分に行っている。
16	自分は、授業や課外学習などで、希望する進路/大学受験に対応できる指導を行っている。
17	生徒は、小鳩会活動によって国内外の人々と支えあって生きる必要性に気づいている。
18	生徒会活動はさかんに行われている。
19	クラブ活動はさかんに行われている。
20	学校行事は充実し、様々な経験ができるように工夫されている。
21	学校は、保護者の悩みや相談、問い合わせに丁寧に対応している。
22	必要な情報がプリントや Classi などを通じて適切に家庭に伝達されている。
23	ホームページには必要な情報が掲載されており、有効に活用できる。
24	保護者会で提供している情報は役立っている。
25	学校は、いつも清掃され、清潔である。
26	学校の施設や設備はよく整備されている。
27	学校は、生徒の安全や健康の管理に常に配慮している。
28	学校は、緊急情報が確実に知らされる体制を整えている。

①【設問のポイント化】手法

各質問項目の評価は、以下のポイント数による加重平均を活用

「当てはまる」に、	＋3 点
「やや当てはまる」に、	＋1 点
「あまり当てはまらない」に	－1 点
「当てはまらない」に、	－3 点

※全回答数から「わからない」の回答数を省き、加重平均を実施して、ポイントを算出

②【満足度スコア】について

＋2 以上	大半の回答者が高い評価をした項目
＋1 以上	2/3 以上の回答者が肯定的である評価の高い項目
＋0.4～＋0.9	半数強の回答者が肯定的である項目
－0.3～＋0.3	肯定、否定が拮抗した不満の芽となる要注意項目
－0.9～－0.4	否定的な回答者が多い不満解消を検討すべき項目
－1 以下	2/3 以上の回答者が否定的な不満の大きい改善を要する項目
－2 以下	大半の回答者が低い評価をし、すぐにでも改善を要する項目